【ver. 202108】

サンビオティック農業で大豊作！

にんじん(人参)　栽培基準

◆本圃◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備　考
6～7月	土づくり	完熟堆肥 有機石灰、またはスラグ肥料 菌力アップ	1～2トン 100～200kg 5リットル×2回	土壌混和 土壌混和 全面散布	土壌pHは必ず6.0～6.5に調整する。 家畜糞堆肥の多投(2t以上)は避け、特に豚糞や鶏糞は1トン未満に抑える。堆肥は、できれば植物質の多いものを使用する。良質な堆肥がない場合は、五穀堆肥50袋／10aを使用する。 堆肥散布後に菌力アップを散布し耕耘する。その後、2～3週間後に再度菌力アップを散布して耕耘する。2回目は、元肥の散布後でよい。これにより、土壌微生物の繁殖を促し、団粒化した土づくりを行う。 薬剤で土壌消毒を行う場合は、ガス抜き後3日程度空けて、菌力アップを施用する。太陽熱消毒を行う場合は、被覆前に菌力アップ5Lを希釈して散布しておく。土壌消毒後は、必ず再度菌力アップ5～10Lを散布、潅水する。
	元肥	有機百倍、又は 　マッスルモンスター 鈴成 水酸化マグネシウム	8～10袋 8～10袋 10kg	土壌混和	定植2週間前までに土壌混和する。マグネシウムは必要に応じて水酸化マグネシウムを施用する。(pH6.5以上の土壌では、硫酸マグネシウムを使用する。) 地力がある場合は、窒素肥料(有機百倍、マッスルモンスター)を適宜減らします。
7～8月	播種	菌力アップ	5リットル	潅水　7日おきに2～3回	播種後、0.5cm程度もみ殻を敷き、保湿と有機物補給を行う。発芽し始めたら、週1回程度のペースで菌力アップを潅水し、発根と初期生育を促進します。希釈倍率は、50～100倍希釈で大丈夫です。除草剤を散布する場合は、前後1週間を開けて菌力アップを使用します。 短形になりやすい品種や、直根が入りにくい場合は、マジ鉄5000倍を混用して潅水する。
8～9月	追肥	有機百倍 硫酸カリ	1袋×2回 6kg×2回	株元または、通路に施用して培土する	追肥は、間引きの時に行い土寄せする。 追肥を2回に分ける場合は、6月中旬、7月上旬で、3:2の割合で施用する。 梅雨明け以降特に乾燥し、地温が高くなりやすいので、さらに敷きわらをしっかり行い、乾燥と高温を避ける。
8月～根茎肥大期、収穫前	収量アップ	菌力アップ 糖力アップ	5リットル 5kg	潅水(水量適宜) 3～4回	さらに収量を伸ばしたい方は、実施する。人参は、有機態窒素の吸収に優れており、糖力アップにより草勢回復、収量増加、品質アップが期待できる。
	土壌病害、ネコブ線虫、の予防・対応	菌力アップ 純正木酢液	10リットル 2リットル	潅水(水1トン) 3日おき4回以上	萎黄病、立枯病やセンチュウ害は、必ず初期症状で発見し対応する。殺菌剤等を使用したのち、菌力アップ、純正木酢液で病害の蔓延・拡大のリスクに対応する。純正木酢液は、イーオスに置き換えても良い。
	品質向上、貯蔵性向上、病害虫の対応	本格にがり 純正木酢液 海王	500倍希釈 500倍希釈 5000倍希釈	葉面散布 3～4回	にがり・木酢は細胞壁や繊維を強化し、海王は光合成を向上させ、耐病性や根茎肥大を高めます。 収穫前は、良品生産のため、やや乾燥気味に管理するので、葉面散布で施用する。
水害・湿害発生時	応急対策	酸素供給材 菌力アップ	規定量 10リットル	潅水 潅水2回	大雨水害等により冠水した場合は、MOXなどの酸素供給材を速やかに潅水し、翌日菌力アップ10L(50倍希釈)で潅水する。3日後、再度菌力アップ10L(50倍希釈)を潅水する。

※秋冬収穫の露地栽培体系のモデルです。地域、作型によって、時期が異りますので、生育ステージで判断してください。
※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。
※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。